

予報期間 8月22日から8月28日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第18号については最新の台風予報を参照。
- 24日から26日は、低気圧がサハリンからカムチャツカの東へ進み、前線が北日本付近を通過する。太平洋高気圧の東日本、西日本へ張り出しが次第に弱まる。
- 27日から28日は、次の低気圧が北日本から日本の東へ進み、前線が北日本、東日本を通過する。

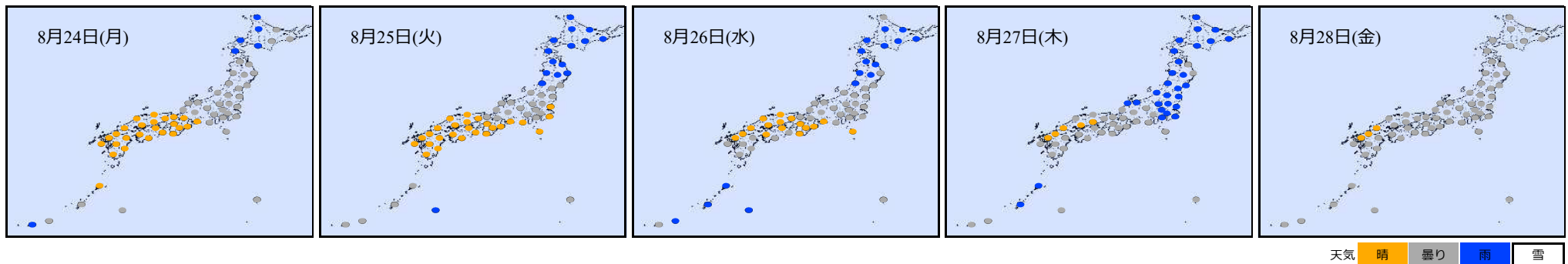
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 北日本では、25日頃は前線の活動の程度等によっては、警報級の大雨となるおそれがある。
- 小笠原諸島では24日頃にかけて、西日本では25日から26日頃にかけて、台風第18号の進路等によっては大しけとなるおそれがある。
- 沖縄・奄美では、24日から26日頃にかけて、台風第18号の影響で大荒れ、大しけとなり、台風の進路等によっては警報級の大雨となるおそれがある。
- 西日本と東日本では、気温が平年より高くなり、最高気温が35度以上となる所がある。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

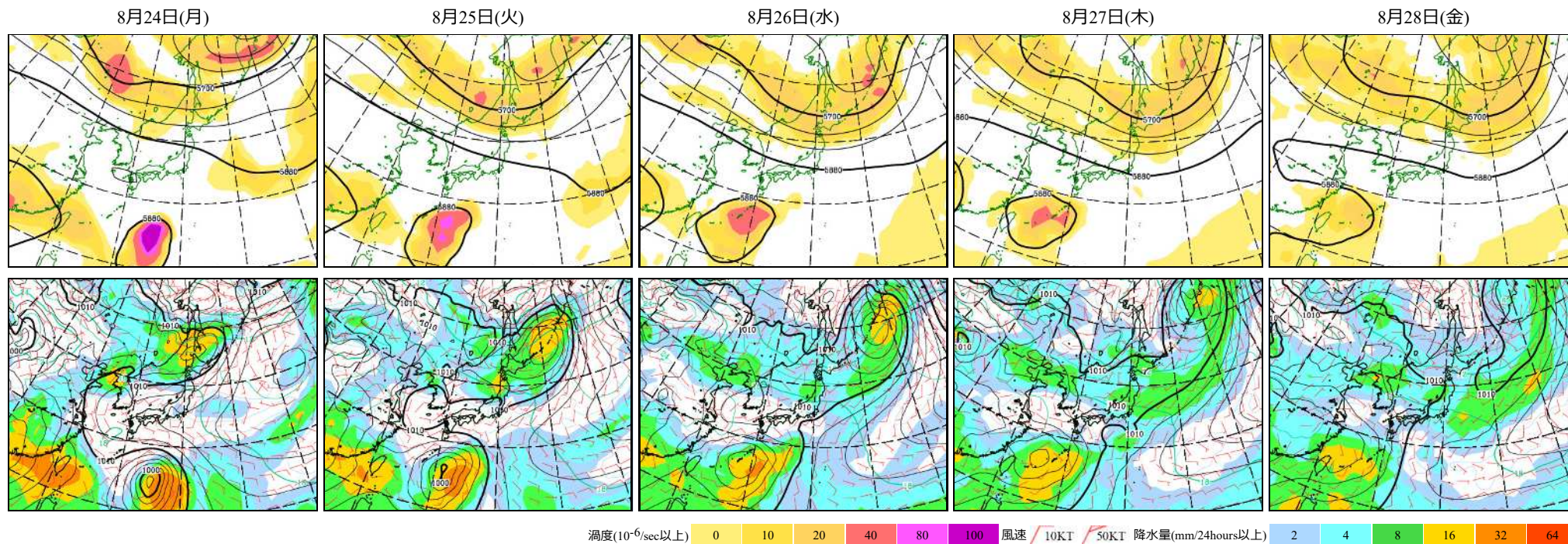
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

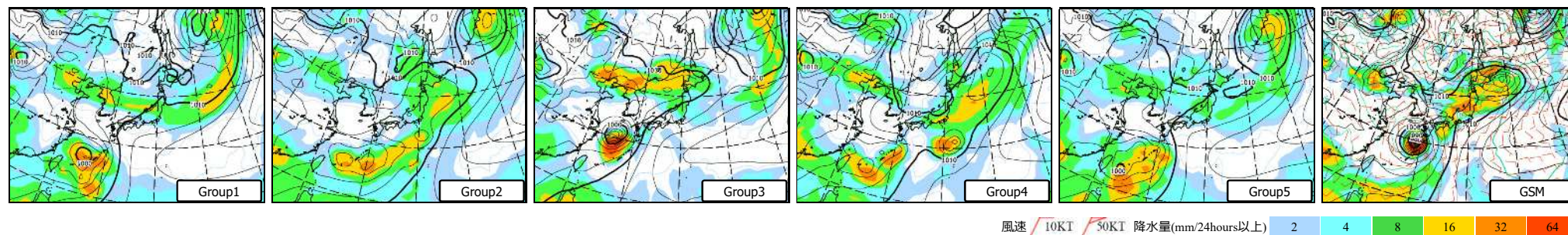


- 北日本は、曇りや雨の日が多い。
- 東日本は、曇りや晴れ日が多いが、27日は雨の降る所がある。
- 西日本は、晴れや曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の日が多いが、24日は晴れる所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆8月27日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、24日以降に日本海北部から千島近海に進むトラフと、その西側を進むリッジが明瞭になった。地上は、沿海州からカムチャツカの東へ進む低気圧が明瞭になった。
- 27日にサハリン付近に進むトラフの進みと深さは、モデル間で差がある。
- スプレッドは期間の終わりで大きく、特定高度線もばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。